

# スイッチでのリモートログサーバの設定

## 目的

システムログ(Syslog)サービスは、単にメッセージを受け入れ、ファイルに保存するか、単純な設定ファイルに従って印刷するだけです。この形式のロギングは、シスコのデバイスに最適です。これは、保護された長期ストレージをログに提供できるためです。これは、日常的なトラブルシューティングとインシデント処理の両方で役立ちます。

ログはデバイスのローカルメモリに保存され、ネットワーク経由でリモートログサーバに転送することもできます。リモートログサーバのログはバックアップとして機能し、ログのメッセージとログ分析に非常に役立ちます。

この記事では、スイッチでリモートログサーバを設定する方法について説明します。

## 該当するデバイス

- Sx250シリーズ
- Sx350シリーズ
- SG350Xシリーズ
- Sx500シリーズ
- Sx550Xシリーズ

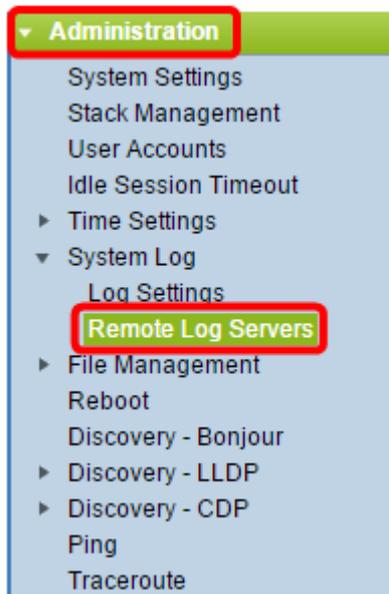
## [Software Version]

- 1.4.5.02 - Sx500シリー
- 2.2.0.66 - Sx250シリーズ、SG350シリーズ、Sx350Xシリーズ、Sx550Xシリーズ

## リモートログサーバの設定

### 基本的なリモートログサーバの設定

ステップ1: Webベースのユーティリティにログインし、[Administration] > [System Log] > [Remote Log Servers]を選択します。



ステップ2:[Server Definition]オプションボタンからオプションを選択します。



次のオプションがあります。

- By Name : リモートログサーバが名前で識別されることを示します。
- [IPアドレス別(By IP address)] : リモートログサーバがIPアドレスで識別されることを示します。
- [無効(Disabled)] : リモートログサーバを無効にします。

注 : この例では、[By IP Address]が選択されています。

ステップ3:[サーバIPアドレス/名前(Server IP Address/Name)]フィールドにサーバのIPアドレスまたは名前を入力します。

注 : この例では、IPアドレスを入力します。

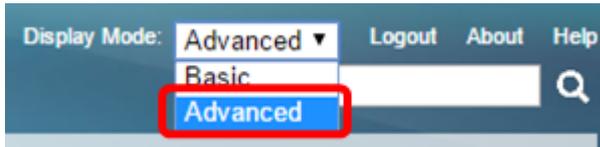


ステップ4:[Apply]をクリックします。

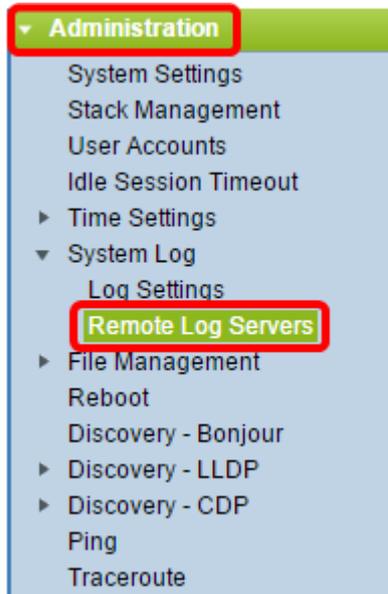
これで、スイッチのリモートログサーバの基本設定が行われたはずですが。

## 高度なリモートログサーバの設定

ステップ1: Webベースのユーティリティにログインし、[Display Mode]ドロップダウンリストで[Advanced]を選択します。



ステップ2: [Administration] > [System Log] > [Remote Log Servers]を選択します。



ステップ3: ( オプション ) SYSLOGサーバに送信されるSYSLOGメッセージの送信元IPv4アドレスとしてIPv4アドレスが使用される送信元インターフェイスを選択します。

注 : [Auto]オプションを選択すると、システムは発信インターフェイスで定義されたIPアドレスから送信元IPアドレスを取得します。これがデフォルト値です。



注 : この例では、VLAN1が選択されています。

ステップ4: ( オプション ) SYSLOGサーバに送信されるSYSLOGメッセージの送信元IPv6アドレスとしてIPv6アドレスが使用される送信元インターフェイスを選択します。

注 : [Auto]オプションを選択すると、システムは発信インターフェイスで定義されたIPアドレスから送信元IPアドレスを取得します。これがデフォルト値です。

Remote Log Servers

IPv4 Source Interface: VLAN1 ▾

IPv6 Source Interface: Auto ▾

Apply Cancel

注：この例では、[Auto]が選択されています。

ステップ5:[Apply]をクリックして、構成設定を保存します。

Remote Log Servers

IPv4 Source Interface: VLAN1 ▾

IPv6 Source Interface: Auto ▾

Apply Cancel

ステップ6:[Remote Log Server Table]領域で、[Add]をクリックします。

Remote Log Servers

Success. To permanently save the configuration, go to the [File Operations](#)

IPv4 Source Interface: VLAN1 ▾

IPv6 Source Interface: Auto ▾

Apply Cancel

Remote Log Server Table

<input type="checkbox"/>	Log Server	UDP Port	Facility	Description	Minimum Severity
0 results found.					

Add... Edit... Delete

ステップ7:[Receiver Definition]オプションボタンを選択します。

Receiver Definition:  By IP address  By name

IP Version:  Version 6  Version 4

IPv6 Address Type:  Link Local  Global

Link Local Interface: VLAN 1 ▾

★ Log Server IP Address/Name:

★ UDP Port: 514 (Range: 1 - 65535, Default)

Facility: Local 7 ▾

Description:

Minimum Severity: Informational ▾

Apply Close

- By Name : リモートログサーバが名前で識別されることを示します。
- [IPアドレス別(By IP address)] : リモートログサーバがIPアドレスで識別されることを示します。

注 : この例では、[By IP address]が選択されています。

ステップ8:IPバージョンを選択します。

- バージョン6:IPv6アドレスの種類を示します。
- バージョン4:IPv4アドレスの種類を示します。

ステップ9: ( オプション ) ステップ8でバージョン6のIPアドレスタイプを選択した場合は、目的のIPv6アドレスタイプをクリックします。

- Link Local:1つのネットワークリンク上のホストを一意に識別するIPv6アドレスを示します。
- Global:IPv6アドレスは、他のネットワークから可視で到達可能なグローバルユニキャストであることを示します。

ステップ10: ( オプション ) ステップ9で[Link Local IPv6 Address Type]を選択した場合は、[Link Local Interface]ドロップダウンリストからリンクローカルインターフェイスを選択します。

Receiver Definition:  By IP address  By name

IP Version:  Version 6  Version 4

IPv6 Address Type:  Link Local  Global

Link Local Interface: VLAN 1 ▾  
VLAN 1

★ Log Server IP Address/Name:

ステップ11:[Log Server IP Address/Name]フィールドの[Server Definition]フィールドに、選択したIPアドレスまたはリモートログサーバの名前を入力します。

Server Definition:  By IP address  By name

IP Version:  Version 6  Version 4

IPv6 Address Type:  Link Local  Global

Link Local Interface: VLAN 1 ▼

★ Log Server IP Address/Name: 192.168.1.1

★ UDP Port: 514 (Range: 1 - 65535, Default)

Facility: Local 7 ▼

Description:

Minimum Severity: Informational ▼

Apply Close

ステップ12：ログメッセージの送信先である[UDP Port]フィールドにUDPポート番号を入力します。デフォルト値は 514 です。

ステップ13：サーバに送信されるログメッセージを説明するファシリティ値を選択します。ファシリティは、リモートsyslogサーバターゲットを識別するために使用されるコード名です。[Local 0 to Local 7]は[Facility]ドロップダウンリストで使用できます。1つのサーバに割り当てることができるファシリティ値は1つだけです。2番目のファシリティコードが割り当てられている場合、最初のファシリティ値が上書きされます。デフォルトは[Local 7]です。

Facility: Local 7 ▼

Description:

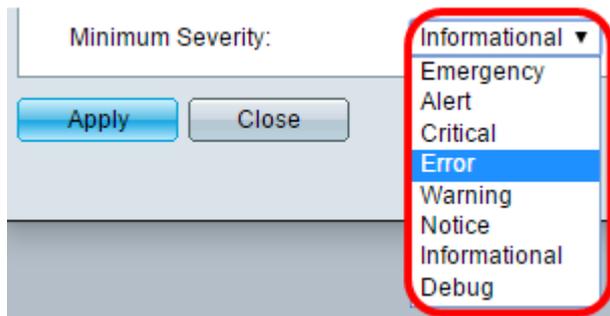
Minimum Severity: Informational ▼

Apply Close

ステップ14:[Description]フィールドにリモート・ログ・サーバのユーザー定義の説明を入力します。

Description: Remote log server

ステップ15：リモートサーバに送信するログメッセージの最小重大度を選択します。デフォルト値の設定は[Informational]です。



[Minimum Severity]ドロップダウンリストには、次のイベント重大度レベルがあります。この重大度は、最も高い重大度から最も低い重大度までリストされます。

- 緊急 – システムは使用できません。
- アラート：アクションが必要です。
- Critical – システムが重大な状態にある。
- エラー – システムはエラー状態です。
- 警告：システム警告が発生しました。
- Notice – システムは正常に機能しているが、システム通知が発生している。
- [情報(Informational)]: [デバイス情報(Device Information)]。

ステップ16:[Apply]をクリックし、構成設定を保存します。

ステップ17:[閉じる]をクリックします。[Remote Log Server]テーブル領域に新しいサーバが表示されます。

ステップ18: ( オプション ) [Save]をクリックして、**起動設定ファイル**を更新します。

Cisco

## MP 48-Port Gigabit PoE Stackable Managed Switch

### Remote Log Servers

IPv4 Source Interface:

IPv6 Source Interface:

#### Remote Log Server Table

<input type="checkbox"/>	Log Server	UDP Port	Facility	Description	Minimum Severity
<input type="checkbox"/>	192.168.1.1	514	Local 7		Error

これで、スイッチの高度なリモートログサーバ設定が完了しました。